

## 町田市総合戦略協議会 第一回協議会議事録

日時：2015年6月26日（金曜日）10:30～12:15

場所：町田市役所 会議室2-1

委員（敬称略）：市川宏雄、澤井宏行、松元洋（代理）、井上博行、鏈溝慶一、清原理、  
福原信広、山田剛康、伊藤亨

事務局：市川政策経営部長、中村次長兼企画政策課長、石坂政策研究担当課長、  
村上、春山

傍聴：2名

### <議事要旨>

#### 1. 開会挨拶

（高橋副市長）

○町田市総合戦略協議会は、まち・ひと・しごと創生本部の考えにもとづいて、「ひと」と「しごと」の好循環により、「まち」の活性化を進めるため、町田市の総合戦略を策定する。そこでさまざまな団体の皆様に広く意見をうかがいながら戦略を作っていく。

2008年から日本の人口減少が始まっており、2030年には全国の人口が1億1千万人程度となる。生産年齢人口が減り、高齢者が増えていくため、国の掲げる2060年の人口を1億人程度に維持する、という目標の実現は難しいと認識している。

町田市では2年前に町田市未来づくり研究所を設置し、その成果として、町田市グランドデザインを策定してきた。これは、人口減少時代における価値観の転換を目指すものである。町田市は2030年には高齢者人口、特に後期高齢者人口が増えていくため、財政面で収入増加が見込めず、支出が増えていく。グランドデザインでは「寂れゆく未来」と「きらめく未来」という2つの未来を掲げている。「きらめく未来」では、市内外から人々が集い、町田発の事業やカルチャーが生まれ、住宅地は、自然や農を楽しめる暮らしと地域のコミュニティ活動が生み出す活力であふれている。価値観を変えていかなければ、「きらめく未来」の達成はむずかしい。

一般的な「郊外」である町田市は、郊外都市としてどのように生きていくべきか。郊外都市NO.1となるにはどうしたらよいか。今回の総合戦略の策定にあたり、皆様のご意見をいただきたい。

#### 2. 委員紹介

（略）

#### 3. 会長選出

（事務局）

町田市総合戦略協議会の会長選出（資料1-1）、第5条の説明

(委員)

○市川委員を推薦する。

(委員一同)

○異議なし

(会長)

○これからの町田をどう考えるか、町田市未来づくり研究所で検討してきた。今回、国としてまち・ひと・しごと創生を考え、各自治体にも戦略策定が求められている。町田市は「郊外都市 NO.1」を目標とし、何ができるかを検討していきたい。

(会長)

○職務代理者は、町田市町内会自治会連合会高橋委員にお願いしたい。

(事務局)

○各委員の皆様には、代理での出席を可能とする。

(事務局)

○資料 1-2、町田市審議会等の会議の公開に関する条例により町田市総合戦略協議会は原則公開とし、傍聴者から提出された意見取り扱いについては個別の回答は行わないとする。本日事前に 2 名の傍聴申し込みがあり、既に傍聴者は入室している。

[高橋副市長退席]

#### 4. 報告事項

(1)町田市まち・ひと・しごと総合戦略策定について

(事務局)

策定背景及び本年 12 月の策定を目指すスケジュールを報告

(2)人口ビジョン策定の背景と人口動向分析策定について

(事務局)

資料 3 の 1 ページから 23 ページを説明

#### 5. 協議事項

(1)目指すべき将来人口について

(事務局)

資料 3 の 24 ページから 31 ページを元に、町田市が抱える課題や将来の方向性の整理の説明

<意見交換>

(会長)

○事務局から、出生率の向上、転入傾向の維持を仮定したパターンが提示されたが、そのパターンを達成するには、どのような政策が必要か。

(委員)

○町田市にはファミリー層が多い。暮らしの部分で考えると、自然環境の良さが好評価につながっている。

(委員)

○市内の昼間人口、夜間人口を含めて議論しなければならないと考えている。割合はどのようなものか。

(事務局)

○昼夜間人口比でみると、0.8 から 0.9 程度で推移している。

(会長)

○今回の人口推計では、昼夜間人口比は考慮していない。まずは人口フレームを決める必要がある。

(委員)

○補足として、転入超過は学生等の転入によるものであり、地域での雇用が必要だと感じている。NPO としても、福祉などの面から雇用の場を創出したい。

(会長)

○人口推計についてはパターン 3 - C で検討する。

## (2)総合戦略の検討の方向性について

(事務局)

資料 3 の 32 ページ、資料 5 の説明

○国が総合戦略にて掲げている「地方への人の流れを作る」という政策の基本目標は、東京に位置する町田市にはそぐわないため、「人々が交流するまちづくりを推進する」との方向性としてほしい。

<意見交換>

(委員)

○商工会議所では、人をつくり、人を活かすという発想で中長期ビジョンを作成した。都市間競争が激しくなるなか、インフラ投資の面で町田市は相模原市に及ばない。我々は、人に投資し、人が行き来しやすい街をつくりたいと考えている。

強い産業がないということについては、ベッドタウンとして栄えた町田の現状を反映していると思われる。

サービス業からすれば、人口は多い方が良く、市外からも多くの人に来てほしい。そのため、ソフト面、特に教育についての取り組みが大切ではないか。町田市ではインバウンドの影響でホテルの売上は伸びているが、飲食業等の売上は伸びていない。英語メニューなどの国際化への取り組みが始まっており、その促進は重要ではないか。玉川学園は国際バカロレアの資格を有し、相模原でも特区を活用する動きがある。

(委員)

○町田市では地域の銀行に対して月 3~5 件の起業の相談がある。若年層の飲食・サービス関連が多い。リタイア後のシニア層も若干程度相談がある。しかし規模が小さく、雇用も一人、二人程度である。上場を目指す飲食店等に、どのような手助けが必要か。町田ならではの産業を作るという観点からも重要と考える。

新産業創造センターの支援により飲食系では良いアイデアが出つつある。シニアの活用も考えるのであれば、連携の仕組みづくりが必要ではないか。得意分野同士での連携や、技術が足りない企業にシニア層をアドバイザーとして呼ぶ、という方法もある。新産業創造センターは第 3 セクターだが、うまくマッチングとコラボができていると感じる。技術のあるシニア層と起業者が結びつければ、シニア層の雇用にも税収増にもつながるのではないか。

(委員)

○経済活性化の問題。昔は荏田から町田へ物を買いに来る人も多かった。町田は 10km 圏の商圈があった。市の財政を豊かにしなければサービスは向上しない。人を呼び込む必要がある。大規模開発を行った海老名や横浜、立川に人が流れてしまっている。モノレールの開通を待つのではなく、相模原市とどう連携するかを考えた方がいいのでは。

(会長)

○交流するまちづくりの考え方に近い。町田市内だけですべてのサービスを提供する必要はない。町田市に住み、相模原市や橋本駅の大規模開発によって生まれるサービスを利用する方法もある。そのため、メリハリが必要だと感じている。町田市は、住宅地として NO.1 という方向性もあるのではないか。

(委員)

○町田市は JR 駅移設の斜陽化対策に 50 年かけてきた。人を呼ぶには開発も必要だと考えるが、市の施策の全体像が見えない。

(会長)

○都市核・副次核をどれくらい魅力的にできるのかがカギである。また、まちづくりには時間がかかるため、早い時期からの検討が必要。具体的なご提案はあるか。

(委員)

○若い世代に対して、例えば IT 系の産業など、これから発展する産業を町田に誘致してはどうか。ビッグデータ、アプリ開発、デザイン系などが昨今話題となっているが、付加価値の高いもの、これから伸びる産業という二つの観点から、IT 系とデザイン系の産業を育てるのがよいのではないか。

(委員)

○大学は、地域の活性化、幼稚園から大学までの教育を担っている。個々の学校の教育の中身を見て、親は居住地を変えてでも学校を選ぶものである。大学においても、受け入れ環境をつくるために、交換留学を頻繁にし、大学を国際化していく方向性で考えている。それを受けて、小中高も国際化を進めることになるだろう。町田も国際的な機能を

つくっていくことが必要ではないか。

(委員)

- 大学には2018年問題もある。学生たちに、町田市で4年間過ごしたインパクトを強く残したい。町田っていい街だ、楽しいところだと感じさせたい。ただ学校に来て、勉強するだけではなく、町田市での取り組みにかかわっていく、といった地域社会との連携を進めていきたい。愛着を持った学生は、後々戻ってくる。大学における先生や商工会議所、事業者の方などの接点などを強くしていくと面白いだろう。日々の小さいつながりをつくっていくことで、就職や結婚につながり、地域の活性化にもつながるのではないか。桜美林入学者の3割は地方出身であるが、就職してからも町田市に住みつづける割合を増やしていきたい。そのためには、町田市のイメージ向上を目指したい。

(会長)

- 町田市では、大学が地域と連携しているというイメージが弱い。

(委員)

- 留学生の地域との交流、飲食店のメニューの英文化など、少しずつ動き出してはいる。

(委員)

- サービ斯拉ーニングセンターなど、地域と交流を持つ場の機会は増えてきている。草の根の運動だと言える。和光大学ともそうした調査を行っている。

(委員)

- まずは信頼関係をつくり、見える化していくことが重要だろう。

(会長)

- その通りである。

(委員)

- 女学館大学が廃校になる。また、強い産業もない。つまり、町田市に魅力がないのか。

(委員)

- 個々の事情もある。町田市は学園都市なので、より強調していきたい。

(委員)

- 社会福祉協議会としては、市民の皆様の地域福祉に貢献するため、地区の協議会が自分たちの知恵・技術を出し合っている。町田市は、ベッドタウンとして発展してきたが、人に監視されないということが孤独死などにつながっている。人を活かしながら、安心できるまちづくりができればと考える。しかし、お金が絡まないところで人を呼び込むというのは非常に難しい。ソフト面で、人をどう活かすかというのは大きいと思っている。

(会長)

- 四つの基本目標を柱として今後進めたい。

## 6. その他

(事務局)

○次回以降の協議会予定は、第2回7月28日、第3回8月31日の13:30からとする。

以上